（別添）

令和６年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名：　デング熱重症化の予測に資する免疫・細胞因子の同定
研究開発代表者名：　森田　公一（長崎大学）

- デング熱の重症化因子を明らかにするために、抗体依存性感染増強（ADE）による中和活性の無い抗体の産生を検出するためのハイスループットアッセイシステムを構築して ADE の簡便な評価法を確立したこと、重症例と軽症例の単核球において遺伝子発現プロファイルが異なることを見出しデング熱重症化と関連する指標候補を複数同定したことなど、重症化予測に展開できる成果が認められた。この成果を基に、臨床検体数を増やして重症化診断ツールとしての実用化を目指すことが期待される。
- 新型コロナ感染症まん延の影響により研究の遅延が懸念されていたにも関わらず、日本、オーストラリア、インドネシア 3 ヵ国の研究チームの連携により、全体として当初の研究開発の目標をほぼ達成した点は評価に値する。一方で、感染患者数が少なく、予定されていたジカ熱との比較実験が遂行できなかったことは残念であるが、構築された共同研究体制をもとに継続的に取り組まれることを期待する。
- 3 ヵ国の研究チームから複数の共著論文が報告されており、今後それらの成果がデング熱ワクチン開発に応用されることが期待されることや、本研究開発課題のなかで若手研究者育成に尽力したことも高く評価される。
- 今後は、臨床実装のゴールを見据えた本研究開発の到達レベルを適切に把握し、最終的な目標を達成するための研究開発上の課題を明らかにすることで、本研究開発の進展が期待される。